

2021年度
教師国内研修
報告書&ワークショップ集

報告書&ワークショップ集



JICA沖縄・JICA九州



目 次

1	事業概要	2
2	参加者一覧	3
3	国内研修全日程	4
4	オンライン広島研修内容	5
5	研修に参加しての感想	8
6	ワークショップ集	13
7	ワークショップ作成者リスト	84



事業概要

2021年度JICA教師国内研修概要

教師国内研修とは

教師国内研修は、講義、インタビュー、フィールドワーク、ワークショップ体験等を実施する研修プログラムです。研修で得た知識や経験をもとにオリジナル教材を作成し、国際理解教育・開発教育の実践に役立てていただくことを目的としています。（「教師海外研修」の代替研修として実施）

1. 本研修のねらい

誰もが安心して暮らせる「誰一人取り残さない」社会づくりに関わる課題には、国や地域にかかわらず共通するものがあります。場所がどこであれ、「課題解決に求められる力は同じ」。本研修では、身近にある事象を通してSDGsについて理解を深め、新学習要領にもある「持続可能な社会な創り手」を育てていくために、子どもたちが教室から実践できる取り組みを学びます。

2. 研修のゴール

- ①研修で得た知識や経験をもとに、SDGsをテーマとした参加型学習教材（ワークショップ）を作成する。
- ②地域の特性を生かして、地元企業や自治体等が実施する国際協力や地域づくりについて理解を深める。

2) 国内研修先（広島県）

参考情報

- 安芸高田市「多文化共生センターきらり」

HP： <https://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/jinkentabunka/z370/>

Facebook： <https://www.facebook.com/akitakatakirari/>

- JOCA × 3（ジョカカケサン）※安芸太田町での取組事例紹介

Facebook： <https://www.facebook.com/Joca%EF%BC%93-%E6%9C%88%E3%83%B6%E7%80%AC%E6%B8%A9%E6%B3%89-115264203354299/>

- Peace Culture Village

HP： <https://peaceculturevillage.org/>



安芸高田市



JOCA × 3



Peace Culture Village

参加者一覧

沖縄県から6名、九州（宮崎、熊本）から5名が参加

名前	所属	担当教科
大城 真紀子 (おおしろ まきこ)	南風原町立南風原中学校	国語
國吉 美穂 (くによし みほ)	興南学園興南高等学校	国語
平田 真弓 (ひらた まゆみ)	沖縄県立那覇高等学校	地歴（地理）
仲宗根 佳佑 (なかそね けいすけ)	八重瀬町立東風平小学校	—
長嶺 利奈 (ながみね りな)	うるま市立天願小学校	—
北脇 皇 (きたわき おう)	カトリック学園海星小学校	—
佐藤 詩織 (さとう しおり)	宮崎県立延岡星雲高等学校	化学
村上 泰子 (むらかみ やすこ)	宮崎県立延岡星雲高等学校	英語
濱口 弥雲 (はまぐち やくも)	宮崎県立延岡星雲高等学校	英語
河野 遼 (かわの はるか)	熊本県立八代農業高等学校 泉分校	農業
藤本 由紀乃 (ふじもと ゆきの)	熊本市立山本小学校	—



教師国内研修全日程

事前研修、国内フィールドワーク、事後研修を通じて知識や経験を得ること、オリジナル教材を作成し実践することをゴールに研修を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響による日程の変更が数回あり、国内フィールドワークはオンラインでの開催となりました。また、事前事後研修もハイブリッドで行う予定も、一部を除きオンラインで行いました。

	日程	内容
(1)	6/26(土)	オリエンテーション 研修内容の確認、チームビルディング ※オンラインで実施
(2)	7/3(土)	講義：開発教育とは？ 参加型ワークショップ体験 ※ハイブリッドで実施
(3)	7/17(土)	講義：沖縄が実践する SDGs、学校と地域の連携 ワークショップ体験 ※オンラインで実施
(4)	8/21(土)	ワークショップの作り方、教員の実践例
(5)	9/18(土)～ 9/20(月・祝)	オンライン広島研修 ※8月実施予定から変更
(6)	10/2(土)	オンライン広島研修振り返り、ワークショップ作成
(7)	11/13(土)	ワークショップ作成・フィードバック会、報告会準備
(8)	1/22(土)	報告会

オンライン広島研修内容

1日目 9月18日（土）13:30-17:45 @Zoom配信

講師 / ゲスト	安芸高田市 地域おこし協力隊 福岡奈織氏 安芸高田市 多文化共生推進員 明木一説氏
目 的	全国的に SDGs の視点を取り入れた多文化共生事業を推進している事で注目を浴びる、安芸高田市の事業関係者との意見交換

内容	担当
【多文化共生の取組①】 「安芸高田市の活動」 ①オンライン施設ツアー 「多文化共生センターきらり」 ②安芸高田市の多文化共生に向けた」取組の紹介 意見交換	福岡奈織氏 明木一説氏
わたしの体験 「平和活動から多文化共生に取り組むようになった理由」	福岡奈織氏

「多文化共生センターきらり」について

安芸高田市は広島県の中心部に位置しており、北は島根県に接している。

事前に調べてみると高齢化の進んでいる市だということで、なぜそのような安芸高田市で多文化共生なのだろう？と疑問に思ったが、少子・高齢化の進んだ町で、多くの高齢者を支える仕組みづくり、そのための人材確保ということで外国人を含めた人材確保ができる仕組みづくりが必要ということがわかった。そのため安芸高田市では、国、地域、民族、歴史観、人種、宗教、言葉の垣根を超えた多文化共生が取組まれており、「多文化共生きらり」は外国人技能実習生や特定技能実習生の住居として運営し、地域住民と外国からの住民が共に共生できるよう取り組んでいる施設である。

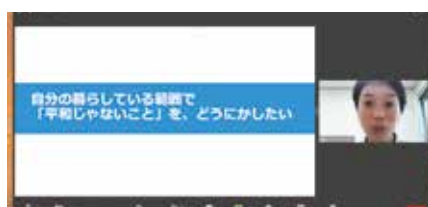


平和の取組から多文化共生へ（福岡奈緒さんの活動）

福岡奈緒さんは平和についての関心が高く、かつては広島市で平和学習の教育プログラムを作成された。

奈緒さんは大学生の頃、「ヒバクシャ地球一周証言の航海」に参加したことで、広島で戦争を語ること、平和を発信することの意味を考えるようになり、どうしたら自分事としてこの世界をよりよくしていけるかを模索するようになったそうだ。

奈緒さんは海外や広島県外の人との交流を図る中で、広島「平和学習」が当事者の体験を軸に構成されているのに対し、世界の「平和学習」は双方の立場から戦争や平和について考察していることを学んだ。また現在も「差別」や「偏見」による暴力が繰り返されており、これらの経験から奈緒さんは自分の暮らしている世界の「理不尽」や「不正義」を見逃したまま生活できないと考え、安芸高田市で多文化共生推進事業に関わるようになった。安芸高田市では、外国にルーツを持つ児童・生徒に寄り添い、「ちがひ」による暴力や不平等がなくなるよう学校と連携を図りながら授業実践を行っています。最後に、奈緒さんは誰も犠牲にならない、皆が対等な社会の実現を目指しており、「違い」を認める雰囲気を作ること、寛容であることが世界平和の源になると話していた。



オンライン広島研修内容

2日目 9月19日（日）9:45～16:15 @Zoom配信

講師 / ゲスト	地域おこし協力隊 福岡奈織氏 学習支援委員 やがたにみゆき氏、利用経験者 マイケル氏 (公社)青年海外協力協会 (JOCA) 加藤秀一氏
目 的	・ 1 日目続き、安芸高田市の多文化共生の取組を外国につながる子どもたちの支援に携わる支援員及び利用した若者の話を聞きながら、外国につながる子どもたちのニーズに寄り添うことを考える ・ 少子高齢化の課題解決のために地方行政と共同での生涯活躍のまちづくりの取り組みから、地域の課題解決にどのように取り組むか考える。

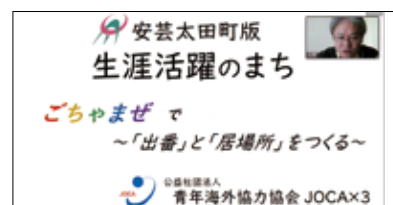
内容	担当
【多文化共生 / 交流の取組】 多文化共生センターきらり、学習支援を利用していた若者及び 学習支援員へのインタビュー 質疑応答	福岡奈織氏 やがたにみゆき氏 マイケル氏

安芸高田市の多文化共生事業における、学習者と支援者からの情報提供について。学習支援者＝マカロン（やがたみゆき氏）、学習者＝マイケル氏。家族の事情により日本へ移住することとなった（小学校低学年の時）マイケル氏がどのように日本での生活を送ってきたか体験を語ってくれた。その中で、文化の違いからくる、生活の困り感をどのようにサポートし、彼が受け取っていたのか、学習支援者の立場から福岡奈緒氏に当時の取り組みについての紹介をしてもらった。



内容	担当
【地方創生の取組】 「人生 100 年時代の SDGs ごちゃまぜのまちづくり」説明 意見交換	加藤秀一氏

地域創生の目的は、若者、高齢者、障がい者、女性など誰もが活躍できる魅力ある地域社会を作ることである。広島県安芸太田町の課題は、高齢化と人口減少である。人口減少に伴い、地域コミュニティの維持が困難になったり、生活利便性が低下したり、福祉サービスが受けられなくなったりしている。そこで、安芸太田町は、地域コミュニティの維持のために地域住民が交流できる場を社会福祉施設の中に造った。



社会福祉施設の中に交流の場を造ることは、人々を地域に戻したり、働く場所を提供したりすることが目的である。そこでは食事や温泉を楽しむことができる。温泉や食事は生活する上で欠かせないものであり、この生活満足度が向上することで、人口流失が抑制され、コミュニティの維持につなげることができる。

今後の課題は地域づくりにその地域の人をどう巻き込むか、若い人にどう関心をもってもらうのか、どう雇用を生むのかである。

小学生や中学生、高校生にももっと地域のことについて理解してほしい。そのためには、その地域の良さや素晴らしさに気づく機会が重要である。生徒に伝えたいことは、その地域にしかない素晴らしいもの、"よさ" が必ずあること。それは今まで多くの人が守り受け継いできたものであり、自分が生まれ育った地域のためにできることをひとつでも継続したいという気持ちをもつことである。

オンライン広島研修内容

3日目 9月20日（月）09:00-12:00 @Zoom配信

講師 / ゲスト	メアリー・ポピオ NPO 法人 PVC、共同創業者 檜崎桃花 PCV スタッフ
目 的	ヒロシマ原爆の歴史から、同じ歴史を繰り返さずに差別や不平等をどう無くして平和文化を築いていくかを考える

内容	担当
Peace Culture Village による平和に向けたオンラインツアー 質疑応答	メアリー
振り返り・意見交換	JOCA

平和学習は沖縄県のみならず、他府県でも行われているが、その多くが「戦争の悲惨さを知り平和を未来につないでいこう」という目的でなされている。今回、このPCVの研修を受けた際、原爆が落とされた地の、投下前の写真・投下直後の写真・復興しつつある写真から、過去は「過去なのか?」「未来になることもあるのでは?」という視点で、「平和とはどういうことをいうのか?」を考えた。そこから私自身が得た視点は、現在は過去から見れば未来だが、未来から見たら過去になる。戦争を含むさまざまな出来事は、いつ「現在」になるかわからないということだ。つまり、「過去の出来事」としてとらえるのではなく、「現在」として平和学習をしていくことで、「自分事」として捉えていけるのである。

「戦争はなぜおこるのか」「平和はどう作っていくのか」「一人ひとりがどう行動していけばいいのか」自分の時間軸で考えていく平和学習は、戦争を知らない世代の生徒たちに必要なものだと感じた。



オンラインフィールドワークの様子

研修に参加しての感想

今年度、私は初めて研究主任という分掌を受け持つことになりました。学習評価方法が変わるだけでなく、県教育委員会より「SDGs 達成に向けた教育実践校」という指定を受けており、自分の役割を理解しないまま年度がスタートしたことに少し不安を覚えました。これまで、JICA 主催の国際理解・開発教育指導者養成講座に何度か参加した程度の知識しかなかった私は、教師国内研修の「足元にある素材を活かした授業づくり」というサブタイトルに心惹かれ、申し込みました。

今回の研修では、コロナ感染拡大のために、ほとんどの研修がオンラインとなり、現地に赴くことができなかったことが一番の心残りです。それでも、この研修を通して、九州の先生方と出会えたこと、他校種の先生方と出会えたことは、何よりの宝物になったと感じています。この研修が終わっても、繋がっていたい先生方ばかりなので、今後も交流が続いていけるようにしたいです。オンラインではありましたが、人との繋がりを感じる研修であったと感じます。本校教頭の内山より、SDGs は、「世界と繋がる」「人と繋がる」というキーワードを耳にしていた私にとっては、それを実感できる研修でした。

今後も自分自身の学びを止めることなく、自己研鑽に励みたいと思います。皆さんとの出会いに感謝し、またお会いできる日を楽しみにしています。

南風原町立南風原中学校 大城 真紀子



私が、この研修に応募したきっかけは、「児童が自分事になる SDGs の実践にはどのような手立てが有効かなどを学び、教育現場に生かしたい。」という事でした。結論から言うと、その目標は概ね達成されたと思っています。

JICA 教師国内研修で学んだ「レヌカの学び」や「パーム油の話」「沖縄の本土復帰の話」広島のオンライン研修で学んだ「原爆投下の真実の話」や、「多文化共生の為に様々な工夫を凝らして、よりよく生きようと試行錯誤している安芸高田市あきたかたしの取り組み」など、独学だけでは絶対に触れる事のなかった多くの知識を吸収できました。また、自分の所属する学級でそれらの実践の話をしたり、ワークショップをしたりすると、やはり去年では感じる事の出来なかった、子ども達の前向きに授業に取り組む姿勢が感じられました。子ども達からの「あー」「なるほど!」「そういう事も環境破壊とつながっていたんだ」など、様々な子ども達の反応が伺えたので、自分自身この研修で得た事はとても有用性のあるものになりました。

しかし、それらの実践以上にこの研修でつながる事ができた、JICA の方々や講師、沖縄・九州の小中高の教員との出会いが僕にとって、価値のあるものになりました。中学校や高等学校での実践や九州での実践を伺い知れたことや、自分の悩んでいる事を打ち明けたりすることで、また前向きに頑張る事ができました。新型コロナウイルスの感染拡大で、オンラインでの研修が多い中、JICA の方々が様々な工夫を凝らしてくださったおかげで、とても有意義な研修になりました。

八重瀬町立東風平小学校 仲宗根 佳佑



この研修で一番感じたのは、「情報をそぎ落とす大切さ」だ。そして、「その難しさ」である。何かを生徒たちに考えさせるとき、時に教師は「あれも考えてほしい」「この問題までいけるのではないかと欲張ってしまう。10分ワークを作成するにあたり、そのことに改めて気づかされた。そして、多くの情熱あふれる先生方と研修を共にすることにより、私の中にある、「知識の泉」と「経験の泉」に新しい水が入ってきた。

何年教師をしても、人生を何十年生きていても、新たな人と出会い、未知のものに出会うことは、とても人生を豊かにしてくれる。このコロナ禍の中においても、そういう機会を得たことは意義深いことであった。

今後も、ここで出会った同志と共に、地域と世界をつなぐ子供たちの育成に取り組んでいきたい。

学校法人興南学園興南高等学校 國吉 美穂

研修に参加しての感想

私が授業を行う上で目標としていることは、学校での学びが日常生活と繋がっていると認識し、学習内容を自分事として捉えることができる生徒の育成です。私が受け持つ地理では、食料問題や人口問題、民族問題など、今日本や世界が抱えている諸問題を扱う単元が多いです。私は、これらの課題とどう向き合い、自分たちに何が出来るのかを多角的に判断する力を養う手法の1つとしてSDGsが有効だと考えました。そこで本研修を通してSDGsの概要や理念を学び、様々なワークショップを通して、生徒に効果的な教材の開発を行いたいと考え、教師国内研修に応募しました。

今回、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初予定していた広島県での研修ができなかったことが残念でした。しかし、zoomを駆使して私たちに研修内容が伝わるよう工夫してくださり、3日間有意義な学びの機会を得ることができました。さらに、研修時の動画をいただけたことで何度も研修内容を振り返ることができ、リアルタイムの研修時には聞き逃してしまった内容を補うこともできました。

今回の研修を終え、教材を作成する上で私に課された課題の1つがワークショップ内容の取捨選択です。教材を作成する際には「何を生徒に一番伝えたいか」を常に意識することをこれからも心がけたいと思います。またJICA、JOCA、他校種や他県など様々な場所で活躍する先生方との交流を通して、先生方の探究心に刺激を受けることができました。今回の経験を生徒や職員に還元するだけでなく、今後も学び続ける姿勢を大切に積極的に研修に参加していきたいと思います。

沖縄県立那覇高等学校 平田 真弓



今回、WSを実践する上で「世界を身近に感じ、自分の世界を広げる」というテーマをもって行いました。本研修を通して、自分自身の“世界を身近に感じた、広がった瞬間”を思い出していました。沖縄という土地柄、毎日の生活の中で、身近に世界を感じていました。その中で、私の世界が広がった瞬間というのが、以前勤めていた小学校でのことです。学期の途中に、アメリカから転入してきた児童との出会いでした。彼との出会いや一緒に過ごした毎日が、私を含めた学級全員の国際理解につながっていたのだと振り返って思います。今回、その実体験をWSにした理由として、遠い国で起きているものではなくて、実際に自分達が過ごしている学校で・・・という設定が、自分事として捉えられる題材になりました。また、9月に実施されました広島オンライン研修1日目の安芸高田市の多文化共生への取り組みから、これからの社会は、日本人や何人・・・と国、人種、それらの違いをのりこえて、相手と理解し支えながら生きていく時代になっていくと思います。これからグローバル化する社会に旅立っていく子ども達に「多くの文化で共に生きる」というココロをもって生きてほしいという願いも込めて実践を行いました。

うるま市立天願小学校 長嶺 利奈

研修に参加しての感想

研修を通してこれからの目標がたくさんできました。

多様な価値観とどう向き合うのか、地球規模の問題を自分事としてどう考え行動するのか、みんなが幸せに生きるために何ができるのか…など、普段考えていることについて同じ課題意識をもつ先生方と議論することは、とても刺激的な時間でした。自分の思いを伝えたり、違う考え方を聞いたりすることができてとても楽しかったです。日本で過ごす外国の方のこと、地方創生の取り組み、平和について、フィンランド教育についてなど、この研修に参加していなかったら知ることができなかったことについても思える深めることができました。

ワークショップ作りでは、他の先生方の知識や経験の豊富さに正直圧倒されました。私は子どもたちが自分事として考えられる課題をなかなか見つけることができませんでした。子どもが“はっ”と考えさせられる場面を取り入れられるような工夫がまだ足りませんでした。まだまだ改善点がたくさんあります。私自身の知識や経験をもっと豊かにする必要性を痛感しました。

研修の終了がゴールではなく、この研修が私の人生のスタートになりました。教師として、子どもたちには「考えることは楽しい!」「自分の考えを伝えることは楽しい!」と感じてほしいという思いがあります。子どもたちが楽しんで議論できるような場をどのように提供するのか、今後も考えていきたいです。また、地球規模の課題解決に向けて行動できる人間になりたいという思いを強くしました。開発教育や英語教育、食育、外国の教育システムを学ぶなど、今はやりたいことがたくさんです。今後の私の行動が今度出会う子どもたちにとって少しでもプラスになるよう、課題解決に向けて少しでも力になるよう、これからも頑張っていきたいです。

熊本市立山本小学校 藤本 由紀乃



所属する学校で総合的な探究の授業を担当することになり、そのうえで必要な知識や技術を研修を通して身につけたいと考えこの研修に参加させていただきました。新型コロナウイルスの影響もあり、すべてがオンラインでの研修となりました。そのような難しい状況の中で様々な研修方法や講義方法を考え行ってくださったことで、対面とは違った良さのある研修になりました。

研修の中で多くの事を学びましたが、その中でも「多文化共生」や「地方創生」のような社会の在り方について深く考えることが出来ました。多文化社会や地方創生と聞くと海外の文化、周りの環境や人々についてばかり考えていました。しかし、広島オンライン研修を通して、外に目を向ける前にまずは「自分自身」を見つめることが大事だと感じました。自分がどういう人間なのかを知り、社会のために何ができるのかを考える事が「多文化共生」や「地方創生」に繋がる。この考えが少しでも生徒に伝わればと考えながら自己理解から相互扶助に繋がるような10分間WSを作成しました。

JICA 教師国内研修に参加させていただいて今まで気づかなかったことに目を向けることが出来たり、自分の持っていない視点からの物事の意見を聞くことが出来たりと学び多き研修になりました。この研修で学んだ事を学校現場で活かしたいと思います。これからも自分の学びを止めることなく、このような研修に積極的に参加し自己研鑽していきたいと思っています。

宮崎県立延岡星雲高等学校 濱口 弥雲

研修に参加しての感想

私が今回の研修に参加したのは、世の中の平和に貢献できる教育とその具体的な指導方法を学びたかったからである。全ての研修を終えた今、私の中の「世の中の見方」が少し変わったことを嬉しく感じている。研修中は、Zoom で国際支援や地域づくりに尽力されている方々の生の声を聞いたり、校種の異なる先生方と意見交換やワークショップを行ったりと、普段では得られない経験や学びが数多くあった。特に心に残っているのは、多文化共生社会についての学びである。このテーマでは「支援」「尊重」「対等」の3つについて、深く考えさせられた。「一人一人が選択しながら生きていけること」は自分らしく生きることに不可欠な要素であること、「自分が誰かの役に立っているという喜び」は、絆を深めるだけでなく、人がその地でより自分らしく生きていくことにつながるなど、誰ひとり取り残さない世界へのヒントをたくさんいただいた。班毎に授業案を考えたことも、今後の授業づくりに大いに役立つものとなった。10分間の指導案では、教師が伝えたいメッセージを、厳選した資料と発問で生徒たちに落とし込む。これが非常に難しいのだが、極限までシンプルにするからこそ、軸が明確になることも実感できた。様々なアイデアを共有できたことも非常に刺激になった。これらの学びを授業に生かし、あるべき世界について、これからも生徒たちとともに考えていきたい。

宮崎県立延岡星雲高等学校 村上 泰子



本校では、地域の困り感解決を目指し、持続可能な取り組みを目指して様々な取り組みを実践している。そのような中「SDGs ×九州～足元にある素材で授業づくり～」という研修案内を目にし、内容に惹かれ研究に参加した。

研修に参加しての率直な感想はとても面白かった。今回の研修はリモートでの実施となったが、それぞれの地域、学校の取り組みを聞くことができ、これからの教育活動の参考になった。他にも、学校現場にいては関わりを持つことができないような、他業種で活躍されている方々の話を聞くことができ、学校教育と違う視点から物事を考える大切さを学ぶことができた。また、校種の異なる教職員がこれだけ SDGs、地域活性化などに興味を持ち取り組もうとしていることに驚きと嬉しさを感じることができた。

特に、広島研修での広島県安芸太田町の月ヶ瀬温泉の取り組みは本校がある泉町に重なる部分も多く大変勉強になった。欲を言えば実際に outward、現場の空気感を感じたかったのが本音である。リモートでも、地元の限られた資源（人、物、自然環境）を有効活用し、町おこしを考えているところはとても参考になった。

私は研修を通しての実践として地域文化の多様性をテーマに『狩猟文化の理解』に取り組んだ。グローバルな視点からは離れるが、本校生徒にとってはまず地元の文化を知り、理解することが大切だと思いこの主題とした。予想以上に多くの生徒が地元文化に興味を示してくれた。今回はローカルな視点から文化の共生について考えた。次回は世界の狩猟文化について考えグローバルな視点に繋げていきたいと考えている。

熊本県立八代農業高等学校泉分校 河野 遼



ワークショップ集

ここからは、教師国内研修に加え、JICA沖縄開発教育・国際理解教育指導者養成講座に参加された方々の作成されたワークショップを掲載します。

土橋泰子氏（つながる学び研究会/開発教育コーディネーター）を講師に、「10分でできるワークショップ」を考え、自分が伝えたいことは何か、メッセージを明確化する作業を行いました。10分という短い時間にまとめることで、参加型学習を授業に取り入れたことがない教員や、開発教育に取り組む時間が取りにくい状況下であっても、少しでも実践に繋げていくことができるようになることを目的としています。

また、伝えたいテーマを一つに絞ってシンプルにすることで、その教員が一番伝えたい、よりメッセージ性の強いものになるというねらいも含めました。そこから、各自の実践に応じてさらに45分や50分、さらには年間を通したカリキュラム設計にまで発展させた方もいます。

★文化の多様性……………	15
★多文化共生……………	28
★食（フードロス、フェアトレード）……………	46
★環境（水・ごみ）……………	52
★世界の子どもたち……………	55
★やりぬく力……………	62
★ジェンダー……………	65
★経験を通して伝える……………	70
★人の意見から考える……………	73
★ライフプランニング……………	76
★SDGsに関する学習カリキュラム……………	78
★オンライン交流学习（報告）……………	82

命、人間生活、地域文化の多様性について

★ワークショップのねらい

鳥獣害対策におけるシカの狩猟を通して、
命、人間生活、地域文化の多様性について考える。

教材内容

所要時間 **10分**～

1グループあたりの人数 **4～5人**

準備するもの

狩猟の様子（写真①）

シカ被害の様子（写真②）

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
写真①を見る	Q 1 写真①を見て、あなたはどのような感想を持ちますか？ →かわいそう、つらいけど仕方ない、被害を減らすには必要 ※シカがもたらす農山林被害をの説明をする。 ※狩猟後の活用方法を説明する。 【補 足】 ・ 林業、農業における食害被害。被害額が数百億円にのぼること。 ・ ジビエ料理や皮を使った製品の紹介。地域の文化に絡めて、太鼓や三味線など。
写真②を見る	Q 2 写真②を見てどのような感想を持ちますか。 —シカに食べられてかわいそう。 —悲しい、柵を高くすればよい。 —別の場所に作れば良い。 —農家さんの残念な気持ち（食べられて悔しい、腹が立つなど）。 —金銭的被害について（収入がゼロになってしまう）。 —対策について（シカから農作物を守るために柵や網など張っている） ※農家さんのその時の言葉を伝える。対策方法について説明 【補 足】 ・ 農家さんの残念な気持ち（野菜が食べられて悔しい、腹が立つなど）。 ・ 金銭的被害について（収入がゼロになってしまう）。 ・ 対策について（シカから農作物を守るために柵や網など張っている）

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
意見交換①	Q 3 二つの意見を聞いてあなたはどのように考えますか？ (①農作物を守るためには必要。②動物愛護の観点から狩猟を否定する。) ーシカを取らないと農作物が作れないから必要。 ーシカの被害知らないからマイナスの意見が出る。 ー山の現状を知って欲しい。 ※それぞれの考えについて説明する。 泉分校へ来た、愛護団体からの話を伝える。
意見交換②	Q 4 どうしたら二つの意見を持つ物同士がわかり合えるようになるか？ ー互いの意見を伝え合う。 ー山の現状を知ってもらう。 ※良い、悪いを決めるのではなく、理解するための方法を考えるように声かけを行う。 【補 足】 ・世の中には様々な考えを持っている人がいることを伝える。その例として「狩猟」と「動物愛護」の意見について紹介し、それを聞いて自分の意見をまとめる。

写真①



写真②





1



2

1 農林産物への被害

東京ディズニーランド
面積

5 2 ha

八代地区の被害面積

1 4 0 ha

東京ディズニーランドの
2.7 個分

3

2 鳥獣対策の実践と狩猟文化の伝承



笠松式くくり罠



片開き式箱罠

4

3 地域には狩猟文化と郷土芸能



5

4 活動への厳し声

動物を殺すなんてひどい学校

6

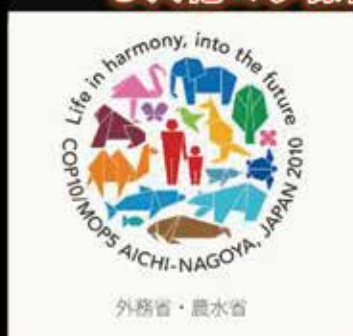
本当にいけないことなの？

7

1 生物多様性と文化

**生物多様性とSDGsの視点から
地域文化の多様性について考え意
見を伝えられるようになる。**

*** 生物多様性には生態系、生物循環以外にも、人間社会における文化の多様性についても説明されている。)**



8



問1 捕まったシカを見てどう思いますか

9

生徒コメント

- ・シカを捕まえるのは難しそう。
- ・かわいそう。
- ・獣害とはいえかわいそう。
- ・作物を荒らされないためには必要。
- ・つらいけどしかたない。
- ・何も思わない。

10



11

生徒コメント

- ・ 柵が低かったのでは
- ・ こんなところに作らない方が良い
- ・ 人にとってはキツイが、シカも生きていく上では必要だから仕方ない。
- ・ 農家さんがかわいそう
- ・ つらい。
- ・ 何も思わない。

12

問 3 二つの意見を聞いてあなたはどのように考えますか？（農作物を守るためには必要なこと。動物愛護の観点から否定すること。）

意見 1) 動物を殺すなんてひどい

意見 2) 農林業を守るには必要だよ。

13

生徒コメント

- ・シカを捕らないと生活ができないからしかたない。
- ・考えても思いつかない。
- ・シカの被害を知らないからそんなことを言う。
- ・それを言うなら豚とか牛も食べられない。
- ・山の現状を知って欲しい。

14

問 4 どうしたら二つの意見を持つ物 同士がわかり合えるようになるか？

15

生徒コメント

- ・シカ皮、肉などを食べてもらう
- ・シカの流通量を増やす。
- ・シカを捕るのではなく、防除を徹底する。
- ・シカ被害をしっかりと訴える。

16

次回

17

- 地域に伝わる狩猟文化を詳しく学ぶ。
- 生物多様性と多文化。
- どうしたら自分の意見（地域文化の保持、動物愛護）を相手に伝えることができるか？

18

互いに認め合い、共に生きていくことの大切さ

★ワークショップのねらい

転入生のイライアス君の文化の違いを通して互いを認め合い、共に生きていくことの大切さを伝える

教材内容

所要時間 **45分**

準備するもの

1. 転入してきたイライアス君（写真1）
2. 困っているイライアス君（写真2）
3. 卒業式で笑顔のイライアス君と友達（写真3）
4. イライアス君が学校生活で感じていたこと（写真4～8）
5. 多文化共生について（スライド）
6. ワークシート

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
導入	Q1（写真1、2） イライアス君はアメリカから日本にやってきました。日本語も話すことはできません。授業の中でも困っているようです。なぜだろう？ ※・自分のクラスにアメリカから転入生がやってくるということをイメージさせながら導入を行う。
展開	Q2（写真3） これは、卒業式の写真です。なぜ、困っていたイライアス君は、笑顔で卒業式を迎えることができたのだろう。 —日本の学校に慣れてきた —言葉が少しわかるようになった。 —友達ができた —周りが助けてくれた —イライアス君も勉強を頑張った。 ※学級の仲間の声かけや相手の文化を知る学習を通した国際理解教育を行いながらも、イライアス君本人の異文化を理解しようとする努力も紹介する。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
	Q 3（写真4～8） イライアス君は、日本の学校生活に、どんな違いを感じていたのだろう。 一言葉が違う、教室が違う、トイレが違う、給食が違う (イライアス君は・・・) ・ 上履きに履き替える ・ 体育着がある ・ 給食を机で食べる ・ 給食の後に掃除をする ※海外と日本の学校の違いについてのイメージが不十分だと考えられるが、児童が日本の学校の“当たり前”について改めて意識させるようにする。 実際のイライアス君のの違いから、学習者の関心をさらに深める。(外履きのまま、学校に入るのか、給食はどこで食べるのか、掃除はしないのか、など) 違いをとらえやすいように、比較したものを提示する。
まとめ / 振り返り	Q 4 文化や歴史、生まれた場所や言葉が違う人たちと「共に」生活していく」そのために必要なことは何だろう？ - 一 相手をよく知ること - 一 相手の言葉や文化を教えてもらうこと - 一 自分も知ろうとする気持ちを持つこと ※ 相手を知る、知ろうとすることから、よりよい関係が作れるということを理解できるようにする。 ※ 最後にイライアス君への手紙を書く

実践しての感想

- ・ 自らの経験を教材にしたことで、より身近に感じられる授業になった。
(児童の実態に合わせた教材研究や、各教科と関連付けた取り組みを通して、児童らのこれからの国際人としての基礎づくりに、つながったのではと実践を通して感じた。)
- ・ 子どもたちが自主的に考え発言する姿が見られた。
(提示する写真の順番や、発問をしばることで、ねらいにより達成するものだと感じた。)
- ・ これから、総合的な学習の時間(3学期テーマ:国際理解)や社会科の学習とあわせて、さらに児童らが身近に感じる“国際理解”、“多文化共生”について理解を深められるように教材研究を進めたい。

うるま市立天願小学校 長嶺利奈

日付(/) 名前()

「みんなちがって、みんないい」

わたしたちは、誰も一人ではありません。家族や友達、先生、地域の方々、たくさんの人と協力して生活しています。みんなは、これから沢山のの人たちと出会い、世界を広げていきます。その中で、文化や歴史、生まれた場所や言葉が違う人たちと「共に」生活していく」ということはどのようなことか、考えてみよう。

Q1 なぜイライアス君は、笑顔で卒業式を迎えることができたのだろう

Q2 イライアス君が日本の学校に来て、困っていたことはなんだろう

Q3 文化や歴史、生まれた場所や言葉が違う人たちと「共に」生活していく」そのために必要なことは何だろう？

【今日の学び】



1



2



3



4



5



6



7



8

「共に」生きていくとはどういうことだろう。

日本に住むすべての人が、
国・地域・民族・人種・宗教・言葉・
歴史観などの
違いにとらわれることなく
多様性を持って、一緒に暮らす地域
の一人として互いが大切にされ、同
じ立場の関係を続け、まちづくりに
参加できることが多文化共生です。



誰にでも自分の良さを生かせる場所がある

★ワークショップのねらい

安芸高田市のサードプレイスの事例を通して
誰にでも自分の良さを生かせる場所があることを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～

1グループあたりの人数 **4～5人**

準備するもの

安芸高田市 サードプレイス
写真3枚（家、学校、地域）

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
前時の振り返り	※前時の振り返り（自己理解：それぞれいろんな顔がある） 班毎に自己理解シートをシェアする。 Q 1 話を聞いて感じたことや友人から見た自分について伝えあおう。 ※家での姿については、家族にも聞いて書かせる。 相手を否定する言葉は絶対に言わないことを伝える。
意見交換	Q 2 お互いに補い合える点を出し合おう。 ー班毎に話し合い ー相談に乗ってあげる。 ー苦手なことは手伝ってあげる。 ※苦手な面だけでなく、良い面で互いに支え合えないかについても考えさせる。
サードプレイスについて考える	Q 3 サードプレイスとは何でしょう。 （ヒント用に3枚の写真を準備しておく。） ー3番目の場所 ー1番目と2番目は？一家、学校 ※（安芸高田市の事例を出して）家庭・学校／職場以外で自分が輝ける場所をサードプレイスと呼ぶ。Q 2の内容を踏まえて Q4 へ。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
自分事へ	Q 4 地域のために自分ができることを考えてみよう。 例を1つ挙げて方向性を確認する。(ワークシートなどに記入) ※例として、生徒からアイデアを拾い、多文化共生の視点から「相互扶助」の形に広げる。 次時で共有

※本 10 分バージョンを 45 分、50 分と時間を拡大した実践が次ページへ続きます。

誰にでも自分の良さを生かせる場所

★ワークショップのねらい

安芸高田市のサードプレイスの事例を通して
誰にでも自分の良さを生かせる場所があることを伝える

教材内容

所要時間 **45分**

1グループあたりの人数 **4~5人**

準備するもの

自己理解シート

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
導入	①自己理解シートを班でシェア 見て感じたことや「友人から見た自分」について伝え合おう。 「へー、意外!」「そのまんまやね!」 「私もそんな感じだよ。」「イメージと違った。」 ※指導上の留意 相手を否定するような言葉、傷つけるような言葉は絶対に言わないように伝える。
展開	①お互いに補い合える点を出し合う。自分が相手に対してしてあげられること、して欲しいことについて付箋に書き出し、友人のシートに貼る 「数学を教えてあげる」「重いものを持ってあげる」 「相談に乗ってあげる」「〇〇を手伝ってあげる」 ※苦手な面だけでなく、良い面についても何か出来ないか考えるよう促す。
	②地域のために何が出来るか考えよう。自分や自分の班の人が何を出来るか考えよう。 「ゴミ拾い」「勉強を教える」「わからん・・・」 ※お互いにどこで活かそうか伝え合うように指示を出す。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
	③サードプレイスという言葉について考えさせる。「サードプレイスって何？」 安芸高田市の事例紹介 「三番目の場所」「一番目と二番目は何？」 「家？学校？部活？」「相互扶助ってなに？」 ※サードプレイスの意味と「相互扶助」について伝える。
	④地域にはどんな人がいるだろうか？あなたはこの町で高校生としてどう助け合えるか？どこで、誰と、どのように？ 用紙にまとめる。全体で発表 「難しい…」 「スタバで勉強を教える」 「公園でスポーツ教室」 「場所が思いつかない」 ※「相互扶助」の観点をもって考えられるように声かけする。
まとめ / 振り返り	これから先、今住んでいる場所とは異なる場所に住むこともあるかもしれない。自分以外の人みんな違う文化を持っている人。その中で自分が輝ける場所を見つけて、助け合いながら生き生きと笑顔で過ごして欲しいことを伝える。 ワークシートに感想を記入 ※①多文化＝日本人と外国人だけでなく、日本人同士もあるということを伝える。 ②「サードプレイス」「相互扶助」の重要性を伝える。

ワークシート①

私ってどんな人?

性格

長所 短所

得意 不得意

No.() 名前()

☆学校や部活での私って...

以前は...

今は...

☆家での私って...

以前は...

今は...

家族から見た私って...

友達同士で助け合える事は何があるだろう？自分がしてあげられること、して欲しいことを考えよう。



授業を通して学んだこと、気づいたことに関して感想を書こう。

(キーワード: 自己理解、他者理解、多文化社会、サードプレイス、相互扶助)

自分の良さをいかした相互扶助のあり方

★ワークショップのねらい

安芸高田市のサードプレイスの事例を通して
自分の良さをいかした相互扶助のあり方を伝える

教材内容

所要時間 **50分**

1グループあたりの人数 **4~5人**

準備するもの

ワークシート①②

安芸高田市の事例
(足湯のエピソード)

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
ねらいの確認	「相互扶助」の定義を確認し、互いに助け合うためにはまず自分に何ができるのかを知る必要があると伝える（自己理解の必要性を確認）
自分の強み弱みを考える	Q 1 自分の特徴は何だろうか。また、自分の強み、弱点は何だろうか。 —自分のことだけどなかなか書けない、長所が思い浮かばない ※記入例を提示し、イメージしやすいようにする 長所が書けない生徒については、短所をリフレーミングする相手が気づいていない良さがあれば、教えるように伝える ●グループごとに自分の特徴を共有する ※相手を否定する言葉は言わないことを約束させる Q 2 互いの強み、弱みを補い合うことはできないか。 ※弱点を克服することは素敵なことだと伝えた上で、互いの強みをいかして相手の弱点を補うことも大切な人間関係づくりだと確認する
サードプレイスについて考える	Q 3 サードプレイスとはどのような場所だろうか。 ※話し合い開始時はヒントを与えず、言葉から連想させる 話し合いの途中でヒントとして家と学校の写真を提示する ↓模範解答を確認 サードプレイスとは、家・学校以外で「自分らしさが出せる場所」「居心地が良い場所」「活躍できる場所」などと説明する

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
	Q 4. 自分にとってサードプレイスは何処だろうか？ —図書館、公園、SNS・・・ ※サードプレイスの例を提示し、イメージしやすいようにする 現在のサードプレイスが思い浮かばない人には、将来サードプレイスになって欲しい理想の場所を考えさせる ●サードプレイスで出来ることの可能性を共有 安芸高田市の実践例（足湯のエピソード）を通して、自分に出来ることを実行することの意義を考えさせる もう一度本時の目標を振り返り、足湯の事例と「相互扶助」を関連付けることで、自分だったら何が出来るか考えるよう促す
	Q5. 地域（誰か）のために自分ができることは何だろうか ※地理の授業では単元（「人口問題」や「民族、言語・宗教」）の内容も振り返りながら、実生活で自分が出来ることを考えさせることもできる。
まとめ / 振り返り	「今日の振り返り」を記入 またはグループで感想共有

* 生徒の反応（感想）一部抜粋 *

- 自分の好きなこと、得意なことが誰かの役に立つ可能性を知ることができた。
- 高校では道德の授業がないため、今回自分や他人の内面や人との関わり方を考える機会が持てて良かった。この経験は小論文や面接などにも生かせると思う。
- 自分の強み、弱点を書き出したとき、知らず知らずのうちにすでに人と助け合いながら生活してきたのだと気づいた。
- 自分のことを見つめ直すいい機会だった。自分の出来ることは何か、それが発揮できる場所はどこか探していきたい。

* 実践しての感想 *

当初、授業実践を2時間として計画を立てていましたが、オミクロン株の感染拡大を受けて急遽1時間かつペア学習による実践になりました。そのため、Q4.の回答を学級で共有できなかったこととSDGsの目標と照らし合わせることができなかったことが残念でした。しかし、生徒の感想の多くに自己の内面と向き合えたこと、自分自身が社会に貢献できる可能性に気づけたことを肯定的に捉えており、目標であった「相互扶助」について生徒自身が自分事として考えている姿が見られました。今後は、生徒の感想を生かしながら、ワークショップの改善を図っていきたいと思います。

【足湯のエピソード：二人にとってのサードプレイス】

とある足湯に青年と高齢の女性が毎日のように通っています。青年は身体に障害を抱えており、自由に身体を動かすことが難しい状況です。一方の女性は、高齢のため認知症がすすみ、家族は女性の深夜徘徊に悩んでいる状況でした。

ある日、その女性は青年にゼリーを食べさせました。そして、青年はその行為に感謝しました。最初はなかなか上手にゼリーを食べさせてあげられなかったのですが、ゼリーを青年に食べさせる日々が続くうちに女性の中で「青年には私がいないと」と使命感を持つようになり、自分が必要とされていることを実感するようになりました。

数ヶ月後、家族を悩ませていた女性の深夜徘徊が改善され、また青年にもやりとりを通して変化が現れました。ゼリーを食べさせて貰い続けているうちに、障がいでも動きづらかった首の可動域が広がったのです。

青年の障がいが緩和された原因は医者にも分かっていません。ただ、1つ言えることは、足湯で出会った二人が触れあう中で、互いの症状が改善されたということです。

自分らしく輝ける場所で 何ができるだろうか

学習日 月 日 ()

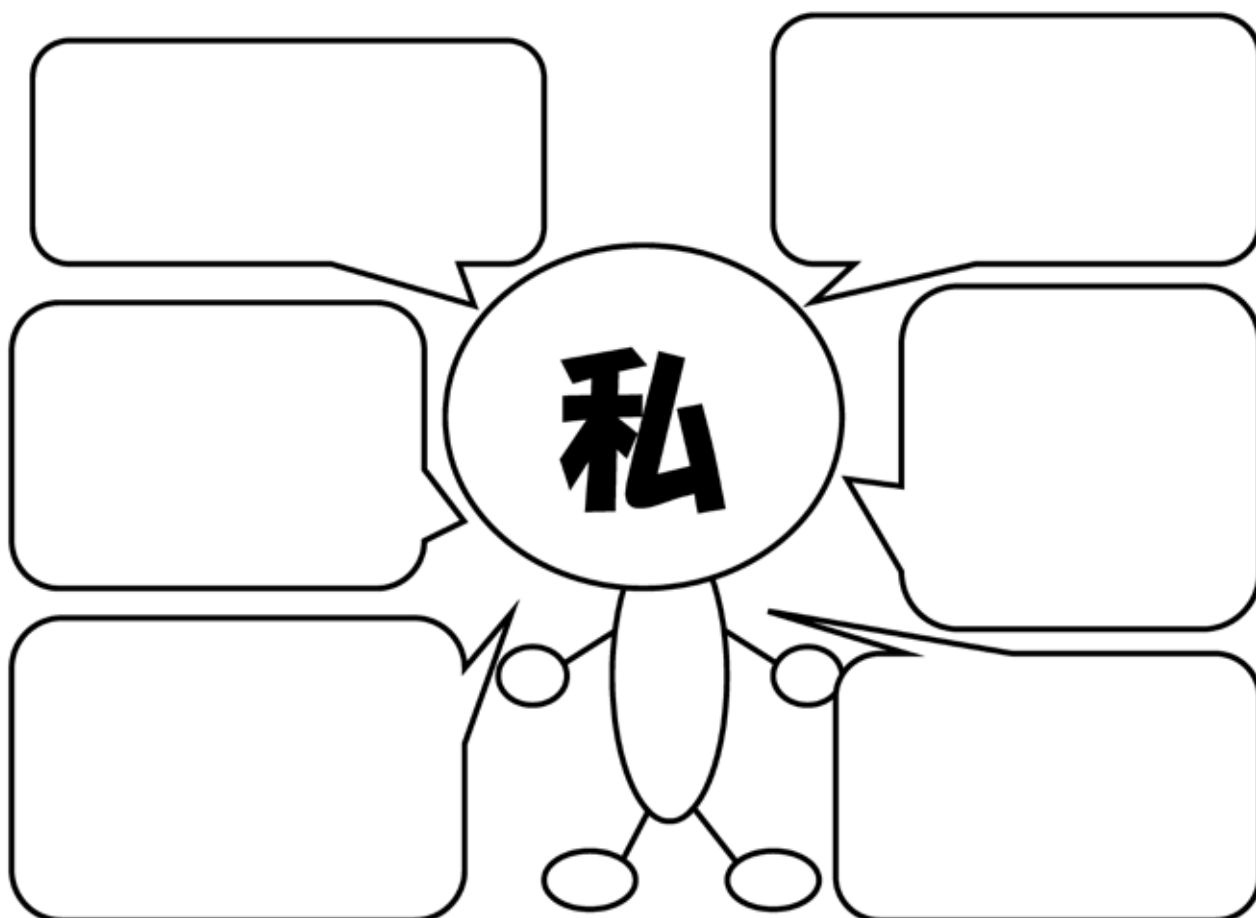
3年 組 番 名前:

* 本時の目標 *

相互扶助のあり方について考える

自分ってどんな人？ **みんなで共有しよう!!** **助け合えることは？**

自分自身の特徴をまとめてみましょう。 例) 明るい、粘り強い、数学が得意 など



自分の強みは...

自分の弱点は...

ワークシート②

サードプレイス?? サードプレイスとは とある足湯で… サードプレイスの可能性

(1) サードプレイスってどんな場所? グループで話し合ってみましょう。

グループの解答

模範解答

(2) あなたにとってサードプレイスに該当する所はどこだろうか。理由も書きましょう。サードプレイスが思い浮かばない人は、将来そうなって欲しい場所を書きましょう!!

例) 場所: 博物館

理由: 新しい知識を身に付けることが出来るし、将来、展示物を解説するボランティアに参加したいから

***場所:**

***理由:**

自分にできる事は?

地域(誰か)のために自分ができないことはないか考えてみましょう♪

☆★今日の振り返り☆☆

1. 今日の授業内容を理解できたか? 当てはまる項目に○をつけましょう。

(できた ・ そこそこできた ・ 余りできなかった ・ できなかった)

2. 今日の授業で理解できなかったところはないか? 疑問点がある人は下に書き込みましょう。

また、今日の授業の感想も書き込みましょう。

フードロスを減らすためにできること

★ワークショップのねらい

「世界食糧デー」月間に関する動画や資料を通して、
フードロスを減らすために自分たちができることを考える。

教材内容

所要時間 **10分～**



準備するもの

- ①動画【AC ジャパン おむすびころりん】
<https://youtu.be/JuRhMEdNsnw>
- ②資料【出典：国連食糧農業機関（FAO）、農林水産省】
- ③動画＆資料【AC ジャパン スーパーの特売セール の CM】
<https://youtu.be/zITNDQcwq0k>

★進め方

おむすびころりん

スーパーの特売セール

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
動画①視聴	Q 1 この動画を見てみよう！ 【AC ジャパン おむすびころりん】 何についての動画でしたか？ ーフードロス ※給食委員会の「完食キャンペーン」などに関連づける
フードロスについて 知っていることをあ げる	Q 2 「フードロス」について、どんなことを知っていますか？ ー食べ残しをしない。 ー賞味期限切れ。 ー食べられる分だけ作る。 ※・食べ残しだけが、フードロスなのかさらに問いかける。
資料から考える	Q 3 「賞味期限切れ」の食品を捨てることがなぜいけないのだ ろう？ ーもったいないから。 ーまだ食べられるから。 ー廃棄にお金がかかるから。 ※食べ物には十分に足りている世界で、すべての人が食べられないという 現状があること、フードロスによる二酸化炭素は、推定36億トンと 言われていること、日本では食料の6割を海外からの輸入に頼っている ことを補足する。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
動画③視聴	Q 4 「AC ジャパン スーパーの CM」を見てみよう！ 私たちができる、「地球にスーパーいい行動」ってどんなことがあるだろう？ ー消費期限が近いものから選んで、無駄なく食べる。 ※それも大切なこと。他にも身近なことで、できることないか、食事をするときに、ちょっとでも考えるよう促す

※ページ 63 コラム 1 参照

意識した買い物？

★ワークショップのねらい

フェアトレード商品のチョコレートを通して
意識して買い物をすることを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～



準備するもの

- ①フェアトレードチョコレートとそうでないチョコレート
- ②3分でわかるフェアトレード
<https://www.youtube.com/watch?v=2NlAsvOsPlQ>

★進め方

フェアトレード

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
動画を視聴する	Q 1 どっちのチョコを買う？ ー安い方を買う ※学習者に答えてもらう。このチョコレートの違いを話す。
	動画前半を観る（～1分26秒、適正な価格で買ってもらえる前まで）
ブレインストーミング	Q 2 この状況になってお父さんと子供はどう思ったのかな？ ーもっとお金もらいたいな。遊びたいな。生活苦しいな。学校行きたいな。 ※いろんな意見・感想を出してもらう。
	Q 3 自分がこうなったらどうする？ ※グループで話し合ってもよい
動画を視聴する	Q 4 動画の続き、後半を視聴する
	Q 5 再度、どちらのチョコレートを買うか問う ※意見が変わった場合、その理由をきく。 買い物する時は、値段だけ見るのではなく生産過程も知ること大事だね。 「誰1人取り残さない」ってこういうことをあわせて考える。

※実践者は、Lesson 9 The Bitter Truth about Chocolate All Aboard! (コミュニケーション英語Ⅱ 東京書籍) の導入として位置づけて考案。

世界のいろいろな食文化

★ワークショップのねらい

レッドカップキャンペーンを通して世界には
いろいろな食文化があることを伝える

教材内容

所要時間 **10**分～

準備するもの

ワークシート：レッドカップキャンペーンの写真
松丸奨 監修（2020）『そうだったのか！給食クイズ
100－③1 グループあたりの人数 日本の給食・世界
の給食編』凸版印刷株式会社

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
写真を見る	Q 1 何をしていると思いますか問う。 ※給食の時間であることを伝える。
	Q 2 みんなのいつもの給食と違うところがありますか？ ※給食の支援受けていることを伝え、レッドカップキャンペーンについて説明をする。 レッドカップキャンペーン： https://www.jawfp.org/redcup/
	Q 3 どんな様子か問う。 ※レッドカップキャンペーンの対象商品を見せながら、理解を深めるような問いを続けることも可。
	Q 4 他の国の給食の様子を知って、思ったことや考えたことはあるか意見を出し合う。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
45 分授業への展開	Q 5 『そうだったのか！給食クイズ 100 – ③日本の給食・世界の給食編』掲載の「せかいのきゅう食」を通して、他の国の給食の様子（食の様子）を知る。他の国はどんな給食を食べているのか考える。 ※学習者と会話をしながら進める。 ※図書館を活用し、調べ学習へ発展 ※振り返りをして、他の国の給食の様子を知って、思ったことや考えたことなどを共有する。

実践しての感想

レッドカップキャンペーンを知ったのは、地域の新聞記事がきっかけでした。この写真を使って、10分バージョンを考えていく中で、「何を伝えたいのか」を明確にしたり、それに関する発問を考えたりすることが難しく、悩みました。2年生を対象に、「給食がない国もある」「自分たちの給食とは違う給食を食べている国がたくさんある」ということを伝えられたらと思い、1時間バージョンの作成にも取り組みました。「せかいのきゅう食」のパワーポイントを作成し、子どもたちが感じたことを発言しながら楽しく取り組めるようにしました。また、図書館の本を使って、自分が知りたい国の様子を自由に見られるようにしました。最初に、1時間のめあてを示したら、目標がより明確になったかと思いました。そのために、もう少し、教材研究をする必要があったと思います。子どもたちは、「えっ、これが給食なの」「おいしそう」「自分たちの給食と違う」「他の国に行って食べてみたい」と興味を持って活動に取り組んでいました。また、子どもたちから、「レッドカップキャンペーンはSDGs に関係がある」との発言がありました。

レッドカップキャンペーンの写真

(出典：レッドカップキャンペーン <https://www.jawfp.org/redcup/>)



食

レッドカップキャンペーンの対象商品（実物、実践者撮影）



大切な水

★ワークショップのねらい

他の国の子ども達の喜びを通して
水の大切さ、ありがたさを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～

準備するもの

子ども達の笑顔の写真

(2020(令和2)年『小学校社会6学年』教育出版 p.257 より)

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
	Q 1 みんなにとって喜びって何ですか？ ーゲームをしているとき、・試合で勝ったとき、 ー欲しいものを買ってもらったとき、ほめられたとき ※学習者の周りにあるいろいろな喜びを挙げてもらう。
写真を見る	Q 2 この写真を見てどう思うか問う。 ※子ども立ちの表情やなぜ、喜んでいるのかを問いながら、子ども達の 周囲にある道具に着目させる。
	Q 3 水がでない生活ってどう思うか問う。 ※日本では、安全できれいな水が使えるけど、世界のある地域では、き れいな水が自由に使えないところがあることを知らせる。
アクションを考える。	Q 4 世界には、水が自由に使える国と水が自由に使えない国がある。私たちは、どうしたらいいのか？ ※自由に発想、できることを考える。

実践では、社会科、単元「地球規模の課題と解決と国際協力」に位置付け、世界で活躍する日本人の活動に着目して世界の課題を解決するために、日本の人々がどのように取り組んでいるかについて知り、学習もんだを立てることをねらいとして取り組んだ。砂漠の土地やペシャワール会の中村哲氏(故人)の取組の写真を提示しながら行われた。

「使い捨て型社会」を変える

★ワークショップのねらい

日本人の長坂まごさんのアート作品を通して
「使い捨て型社会」を変える必要性があることを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～

準備するもの

写真①学校の落とし物コーナーの写真
写真②黒人の子どもの絵の周りに、本物の電化製品のゴミがちりばめられたアート作品の写真
写真③作品を作った日本人アーティスト長坂さんの写真

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
写真①を見る	Q 1 学校の落とし物コーナーの写真を見て気づくことをあげる ー落とし物が多い ーまだ使える物ばかり ー名前があったら持ち主に返せる ※日頃あまり気にせず、通りすぎていることに意識を向ける
写真②を見る	Q 2 アート作品を見て気づいたことはありますか？ ー黒人の子ども、コンセント、ゴミ？ ※世界でも注目されている作品。どうしてなのか考える。
写真③を見る	Q 3 この作品を作った長坂まごさんです。なぜマスクをしているのでしょうか？ ー一体に悪い物がゴミから出ている。 ー病気にならないように。 ※ごみで環境を壊す人と救おうとする人がいるということを紹介する。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
	長坂真護（ながさか まご）さん MAGO CREATION 株式会社 代表取締役美術家 MAGO Art & Study Institute Founder 1984 年生まれ。2009 年、自ら経営する会社が倒産し路上の画家に。2017 年 6 月“世界最大級の電子機器の墓場”と言われるガーナのスラム街“アグボグブロシー”を訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会う。アートの力を使って、“我々先進国の豊かな生活は、このスラム街の人々の犠牲のもとに成り立っているという真実”を先進国に伝えることを決意。

力をあわせて生きることの良さとは？

★ワークショップのねらい

ニジェールに住むバルキさんのくらしを通して
力を合わせて生きることの良さに気づく

教材内容

所要時間 **45分**



準備するもの

資料参考：開発教育を考える会編（2019）
『地球の仲間たち スリランカ / ニジェール』 ひだまり舎
<http://hidamarisha.com/> 地球の仲間たち スリランカ
／ニジェール／

★進め方

ひだまり舎

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
導入	Q 1 この女の子はどんな気持ちで何をしているのかな？ ※写真を複数同時に提示する ー手伝い大変だな ー友だちと遊びたいな ー笑っているから、いやではないのかも。 ー楽しんでいる。 ※この女の子はバルキさん。ニジェールにすむ 11 歳の女の子であることを説明。 ※バルキさんの生活、夢や思いを紹介する。（文字で示す） ○バルキさんの生活、夢や思い○ ・ 年 11才 ・ 好きな教科 歴史と読書 ・ 将来の夢 看護師 ・ 尊敬する人 お父さんとお母さん ・ 生きる上で一番大切に思っていること 助け合うこと。だれかがこまっていたら助ける。もし、わたしが困っているときにだれも助けてくれないと悲しいから。 バルキさんの紹介から感じたことを聞き出す。



活 動	ファシリテーターと参加者の行動
展開	Q 2 バルキさん（ニジェール）のいいな、と思うことは何ですか。 —家族思い —一人のことを考えている —支え合って生きている —助けたいという気持ちがある —勉強をがんばっている —夢がある
まとめ（自分事へ）	Q 3 力を合わせることがなぜ大切だと思っているのかな？ —生きていくため —みんなですると楽しい —自分の力でみんなが元気になると嬉しい ※力を合わせて頑張ると、自分も周りの人も笑顔になる。力を合わせることは、生きる上で必要なことであるなどのコメントを入れる。 Q 4 【自分に落とし込む】 みんなで力を合わせて取り組んだことはなにがありますか。 そのとき、どんな気持ちでしたか。 ※書いたことを全体で共有する。
児童の反応（抜粋）	バルキさんのやさしい心、思い合う心、人を助けてあげられる心にすごく感動しました。私は人に「大丈夫？」など声をかけられないことが多いけれど、もっと周りの人のためになる生き方をしたいです。卒業までの友だちとの時間を大切にしたいです。

ワークシート

「ニジェールのバルキさんのくらしから」

年 名前 ()

問1 バルキさんの“いいな・すごいな”と思うところは何ですか

--

問2 助け合ったり、力を合わせたりすることはなぜ大切なのでしょう

--

問3 ①みんなで助け合ったり、力を合わせたりして取り組んだこと

--

②それをやり終えたとき、どんな“よかったな”がありましたか。

--

ふりかえり

良いところを見つけよう

★ワークショップのねらい

マラウイの子ども達の様子を通して、
よさを見つける目の大切さを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～

準備するもの

写真1：マラウイの小学校授業の様子
写真2：粘土作品を発表する子ども達
映像：外での料理の様子

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
写真1を見る	Q1 この子達は何をしているでしょう？「いいね」を見つけよう。 —砂遊びが楽しそう、教科書持っていていいね —スカートがキレイでいいね、勉強？頑張っていていいね —天気がいいね 【写真の解説】 実際は、算数の授業で、数字を地面に書いて書き方の学習をしています。靴、ノート、制服は買えず、ビニール袋がカバン。
写真2を見る	Q2 この子達は何をしているでしょう？「いいね」を見つけよう。 —粘土が上手、笑顔がいいね、裸足で気持ち良さそう —作るのがうまいね 【写真の解説】 農業の授業で、マラウイで育てられている動物の勉強をしているところ。カラー写真もないので、自分たちで動物の見本を作っています。
映像を視聴する	Q3 マラウイの人達はどんな様子かな？ —楽しそう、すごく笑っている、幸せそう、こっちまで楽しくなる ※マイナスに感じることもある写真や映像ですが、「いいね！」の見方をするといいところがたくさん見えてきますね。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
話し合い/ 意見を出す	Q 4 クラスのいいね！を見つけよう！ —仲がいい、落ちているものを拾える、みんなの笑顔が素敵、 —褒め合える ※たくさん「いいね」があって素敵ですね。自分の「いいね」、友達の「いいね」をもっと見つけていいね名人になろう！



A group of four children are sitting on a sandy ground, smiling and holding small objects, possibly seeds or stones, during an outdoor activity. They are wearing colorful clothing, including a blue shirt, a green shirt, and a blue and yellow shirt. The background shows a brick building and a clear sky.

決めたことを積み重ねることの大切さ

★ワークショップのねらい

大谷翔平の高校時代の目標設定シートを通して、
決めたことを積み重ねることの大切さを伝える。

教材内容

所要時間 **10分～**



準備するもの

- ①動画【大谷翔平ゴミを拾う】
<https://www.youtube.com/watch?v=RDEZ4v4ZgRY>
- ②資料【大谷翔平が花巻東高校時代に書いた実際の
目標達成シート】
<https://dime.jp/genre/567605/>

★進め方

ゴミを拾う

目標達成シート

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
動画視聴	Q 1 この人を知っていますか？ ー大谷翔平 ー二刀流の人 ーゴミを拾っている。 ※投手も打者も両方で活躍しているすごい人・・・などのコメント
背景を考える	Q 2 なぜ、ゴミを拾っていたのでしょうか？ ー習慣だから ー日本人だから ーきれい好きだから ※海外では、二刀流も評価されているが、その人柄が評価されている。
大谷翔平選手の目標達成シートから考える	Q 3 大谷翔平選手が、高校時代に書いた実際の目標達成シートを見て、何か気づいたことはありませんか？ ※資料②を使用 ー書かれている目標がほとんど達成できている。 ー「運」の中に「ごみ拾い」がある。 ※「運」や「人間性」にある具体的な実践に書かれていることを今でも続けていることがわかることに触れる。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
目標を考える	Q 4 みなさんは、どんな目標を立てて、どのようなことを頑張ろうと思いましたか？ 一文武両道 ※高校時代に決めたことを今も続けているからこそ、偉業を成し遂げられたのかもしれないことに触れ、今後の目標を考えることにつなげる。

コラム1「年間10分ワーク構想表」

単独、一度限りにせず、10分ワークを積み重ねることで、国語科では、1年を毎月線で結び実施することで、平和という大きなくくりで考えた。10分ワークや身近な素材を取り入れるが、それを行っただけで終わらない、学びを点で終わらせないということを考えているため、いろんな学びを線でつないでいく、その先に目指すもの、そこへ生徒を導くことが必要であると研修参加メンバーと考えた。

- ・毎月実施することで「特別」にしない
 - ・各教科等との関連を図る（カリキュラムマネジメント）
 - ・様々な10分ワークをパッケージ化することで「汎用的なワーク」と言えるのでは？
- と考えました。

南風原中学校 大城真紀子

年間10分ワーク構想表

南風原中学校

実施	10分ワークの内容	関連	資料・リンク・手法など	SDGs
4月	☆大谷翔平「決めたことを積み重ねる」 ☆「参加のほしご」(50分) ★4・28 沖縄「屈辱の日」	学活との関連 学活との関連 社会との関連	大谷翔平の動画(ゴミをひろう)、高校時代の目標達成シート ロジャー・ハート「参加のほしご」 フォトランゲージ	Goal4 Goal17 Goal11
5月	★5・15「沖縄本土復帰」 ☆「きまり」は何のためにある？	社会との関連 道徳との関連	フォトランゲージ 新聞投書「違反摘発受け臨終に会えず」より	Goal11
6月	★6・23「慰霊の日」 ☆「平和」とは何か？(PCV)	平和月間	フォトランゲージ	Goal16
7月	★沖縄の綱引き ★7・30「ナナサンマル」	地域行事	フォトランゲージ フォトランゲージ	Goal11
9月	☆Love myself(50分) ☆SDGs 週間 ★9・18「しまくとぅばの日」	学活との関連 国語との関連 国語との関連	BTS の動画 教科書(光村図書国語1年「ちょっと立ち止まって」) 「しまくとぅば読本」の活用、動画	Goal3 全部 Goal11
10月	☆フードロス ★10・30「世界のウチナーンチュの日」	10/16 世界食糧デー 地域資料(移民)	動画	Goal2 Goal11
11月	★琉球歴史文化の日 ☆多文化共生	国語・道徳関連 総合との関連	フォトランゲージ 読み物資料(マンガ)「どうしたら分かり合えるの？」	Goal11
12月	☆「人権」について考えよう！ ☆アンコンシャスバイアスに気づく	12/10 世界人権デー	権利の熱気球 読み物資料(マンガ)「どうしたらみんなが幸せに暮らせるの？」	Goal10
1月	★沖縄方言で「寒さの季語」を知ろう！ ☆「不便」の価値を見直そう！	国語との関連 国語との関連	旧暦12月8日(新暦だと概ね1月)ムーチャーの日から 教科書(光村図書国語1年「不便」の価値を見つめ直す)	Goal11 Goal9
2月	★「トゥシビー」		沖縄の「生年祝い」	Goal11
3月	☆1年を振り返って(50分)	学活との関連	はがき新聞(一番印象に残ったワーク)	Goal4

★は沖縄のアイデンティティに関する内容で、フォトランゲージや地域資料を活用。

権利の熱気球

A. 知りたいことや学びたいことを勉強できる権利
 B. 安全な家に住む権利
 C. 家族に愛される権利
 D. 必要な食べ物や水が得られる権利
 E. お小遣いをもつ権利
 F. 自分の携帯電話を持つ権利
 G. 自分の意見言って、聞いてもらえる権利
 H. 自分だけの部屋を持つ権利
 I. 家族で旅行に行くことができる権利
 J. 通いたい体勢したり自分の好きなことをする時間を持つ権利

○あなたは、10個の権利を持って気球に乗っています。ところが突然、気球がどんどんリズリズの入る海に落ちそうです。それが2つの権利を手放さなければなりません。さて、どのを捨てますか？下に記号を書いて、捨てた理由も書きましょう。

記号：	理由：	
記号：	理由：	

○今度は山にさしかかりました。恐ろしい崖が下で待ちかまえています。また権利を2つ捨てなければなりません。どのを捨てますか？下に記号を書いて、捨てた理由も書きましょう。

記号：	理由：	
記号：	理由：	

○今度はジャングルの中で、川の上にはいます。川にはワニがいます。捨てられるだけ権利を捨て、気球を軽くしなければなりません。どのを捨てますか？下に記号とその理由も書きましょう。

捨てた権利(記号)	理由	

☆どうしても捨てられなかった権利はいくつ残っていますか？残っている権利の中で大切に願に答えて下さい。そして、どんな権利が残り、あなたにとって何が必要なのかを考えて下さい。

残った権利(記号)	理由

マンガ どうしたら分かり合えるの？

登場人物
男の子、女の子

設定
中学校の授業中

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

設定
中学校の授業中

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

設定
中学校の授業中

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

設定
中学校の授業中

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

登場人物
男の子、先生

実施例③「外国人・多文化共生」10. 【PDF】マンガ『どうしたら分かり合えるの?』



64

「アンコンシャスバイアス」に気づく

★ワークショップのねらい

ジェンダーの資料 や 動画を通して
「アンコンシャスバイアス」に気づく ※ SDGs 5 に関連

教材内容

所要時間 **10分**～



準備するもの

動画①家庭編： <https://www.youtube.com/watch?v=9U9Av4SKRWY>

動画②職場編： https://www.youtube.com/watch?v=_z8B4hONPvg

★進め方

家庭編

職場編

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
男女どちらの性別をイメージするかを考える（導入）	Q 1 次の言葉を聞いて男女のどちらの性別をイメージしますか？ A 単身赴任 B パート ※前回までは古典文学におけるジェンダーについて考えたよね。今回は現代！みなさんが直面する問題だね。
動画①（家庭編）視聴	Q 2 では、ここで動画を見てみましょう。とにかく、気づいたことをメモしましょう。 —子育て＝女性 —男性＝自由 —男性＝育児休暇とれない？ —女性＝仕事をやめる？・・・etc ※どんなメモが出たか、キーワード確認しましょう。 育児、育児休暇、仕事、時間的自由

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
動画②（職場編）視聴	Q 3 次の動画を見てみましょう。同様に、気づいたことをメモしてください。 —男性が優先？ —男性が出世？ —飲み会あるある？ —勝手に決めつけられてる。．．．．．e t c ※どんなメモが出ましたか？キーワード確認。 私たち自身が「男女平等」といいつつも、無意識にそういう考えをもっていることを確認する。
アンコンシャス・バイアスとは	Q 4 みなさんの中に勝手にきめつけていることはないですか？ —生徒の反応聞く。 ※無意識の偏見のことを「アンコンシャス・バイアス」ということを説明する。

※上記内容を踏まえて、次回の内容「平等とは？」に続く。

【あるお母さんの気づき】

3人息子の長男が高校生だった頃のこと。家にいた彼と昼食をとることになり、ストックを見ると、辛口と中辛のレトルトカレーが1個ずつ残っていた。反射的に「あんた男なんだから辛口を食べなさいよ」と言ったところ、「そんなの男女関係ないじゃん。それはお母さんのジェンダーバイアスだよ」と切り返されてハッとした。

かねてから旧態依然とした性別役割分業意識が強い夫に不満を感じてきたため、せめて息子たちにはジェンダー平等の感覚を持ってもらおうと努めてきた。ところが息子からのこの一言で、自分の中のアンコンシャスバイアスに気づかされることとなった。

夫は家庭内で何か気に入らないことがあると露骨に不機嫌になり、女性は男性の機嫌をとるものだと考えている節がある。その反面、幸い息子たちは食後に「誰かお皿を洗って」と声を掛ければさっと動いてくれるし、家事も当然のようにこなす。先のカレーの話も、長男は高校でジェンダーバイアスという言葉を知った直後のことだった。子どもたちと話していると、例えば3人とも結婚に際して相手の姓に改姓することに抵抗がないなど、明らかにジェンダー観は良い方向に変わっていると感じる。若い世代は希望だ。

私は息子たちに「男だから」「お兄ちゃんだから」などと言わないように気を付けていたつもりだ。それでも気づかないからこそ“アンコンシャス”なのだ。実はたくさん抱えているのだろう。せめて次の世代にはジェンダーバイアスを植え付けないようにしたいと思う。

【ある高校生のつぶやき】

自分は長男で、5つ下の妹と2人きょうだい。しかし長年、「男の子は将来いい仕事について、一家の大黒柱として稼いでいかないといけない」という両親の父権的な考えに悩んできた。

小学生時代から自分に対して親がかけてくれる教育熱は高く、「医師になりたい」と一度も言ったことがなかったのに、気がついたら医学科の家庭教師がつき、学習塾も医師を目指す進学コースに在籍していた。親心は嬉しいが、やはり自分の将来がこのままでいいのかと悩み、大学で医学科に進学したのちに音楽科へ転学した。一方、妹はというと、本人が希望するまでは塾に通うこともなく、猛

勉強を強いられることはなかった。ある時、なぜ妹は自由なのか、積み積みもった不満を父にぶつけたら、こう返ってきた。

「妹は結婚すれば、キャリアがなくても生きていける。だから好きなことをやっていればいい」今、自分は好きを仕事にし自立した生活をしているため、両親はキャリアや将来のことについて干渉してくることは減った。だが、長男が知名度のある職に就いているかどうかという両親の価値観は、今も変わっていないようだ。

コラム2

開発教育や平和教育がその時々になるのではなく、それを活用しながら、イベントになるのではなく、いかに日常化していくか、複数教科の中でどのように盛り込んでいけるのか、そのような意図の中で、10分ワークをカリキュラムマネジメントしていく観点から下記のスケジュールを考えた。各教科の、私であれば国語科の年間カリキュラムと照らし合わせて考えると、意図的・体系的に作成できるのではないかと考えた。生徒たちに目指す場所を理解してもらうのに、鹿島建設の未来の社会を考える探究型プログラム教材を使用し、学習の目指す場所が自分の道を選べる場所、行きたいところに発てる（自分が羽ばたける）場所、いろいろな人がクロスする場所だということで生徒の視点合わせをした。

学校法人興南学園興南高等学校 國吉美穂

授業単元において探究的な学びに向かう姿勢を育む手法としての10分W

回数	実施月	目的	用いる手法	所要時間	教科単元
1	4月	自己理解を深める ・ 自己肯定感をほぐす	はがき新聞（名前新聞）	50分	贈り物としてのノブレスオブリージュ
2	4月	富士山について考える	10分W	10分	富士山のカタチ
3	5月	極限状態で人は理性を働かせることができるか	10分W×3回	10分	羅生門
4	6月	「KY」は死語？	10分W	10分	空気を読む
5	6月	SDGs 16・17へのアプローチ（PCV）	10分W×4回	10分	社説（比較読み）
6	7月	SDGs 5へのアプローチ	10分W×5回	10分	古典常識に関する授業及び小論文へのいざない
7	8月	SDGs 12・13・14・15へのアプローチ	10分W×5回	10分	自然と人間の間を通って考える
8	9月	SDGs 1・10へのアプローチ	10分W×3回	10分	セメント樽の中の手紙（プロレタリア）
9	9月	他者を受け入れるということ	10分W	10分	自由な主体に必要な「尋ねあい」
10	10月	SDGs 1・2・3・4へのアプローチ（マカロン）	10分W×5回	10分	小論文指導
11	10月	SDGs 6・7へのアプローチ	10分W×5回	10分	小論文指導
12	10月	SDGs 8・9・11・12へのアプローチ	10分W×5回	10分	小論文指導
13	12月	人の在り方について考える	10分W×5回	10分	漢文「論語」
14	1月	society5.0へのアプローチ	10分W×3回	10分	「白」
15	1月	「対話」とは？自己理解・他者理解・相互理解	10分W×3回	10分	対話の精神
16	2月	「独裁スイッチ」を用いた小説へのアプローチ	10分W×3回	10分	「赤い薔」
17	3月	自己の成長を可視化する	10分W×4回	10分	志望理由書指導

SDGs ワークシート

一何が変われば目標に近づく？一



・国語関係をもとめてみよう。

・5新聞を用いて、疑問点をあらいだそう。

・自分がで選んだワードに関連する（と思う）記事を探そう。

新聞	〇欄	見出し	出ているワードワード

・リサーチした内容をメモしておく（必ず何をも参照したかを記録に添えておくこと）

こうなったらいいな

何が変われば実現できそう？



年 組 番氏名（ ）

5 オビニオン 2021年(平成33)年 8月10日 火

社説

コロナ下の夏休み

夏休みは子どもにとって大切な時間である。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

17 環境

16 社会

15 経済

14 文化

13 教育

12 国際

11 地域

10 社会

9 社会

8 社会

7 社会

6 社会

5 社会

4 社会

3 社会

2 社会

1 社会

手順 ②

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

手順 ③

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

手順 ④

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

手順 ⑤

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

子どもは、夏休みを利用して、様々な活動を行う。しかし、新型コロナウイルスの流行によって、格差が大きくなった。

経験を通してやり続ける事の大切さを伝える

★ワークショップのねらい

自分自身の フルマラソン完走の 経験を通して
やり続ける事の大切さを伝える

教材内容

所要時間 **10分**～

準備するもの

写真（2枚）

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
写真1を見る	Q 1 （写真1）これは何をしている様子だと思いますか？
	Q 2 どうして諦めずに走り抜けられたと思いますか？
写真2を見る	Q 3 （写真2）どんな表情をしていますか？ ※走っている途中では、足が痛くて、立つことで精一杯だったが、完走した時にはこの表情が自然と出た。
自分の考えを話し合う / 考える	Q 4 自分が続けて取り組んでいる事がありますか？ 一学校に行く 一部活 一早寝早起き、等 ※小さな事の積み重ねが、大きな目標の達成につながる。

実践しての感想

- ・自分の発問に対しての、児童の答えが予想していたものと違って、新たな授業展開の材料になった。

発問	どうして辛いのに諦めずに完走することができたのですか。	
答え	予想	実際
	ここまで頑張ってきたから	周りの人が助けてくれた
	諦めたら終わってしまうから	応援されて元気が出た
	根性で走った	転がってゴールした

実践しての感想

上記の解答を聞いて、助け合いなどの展開でも授業できるなと感じた。

○肯定的な振り返りの発問をしたので、児童が続けて取り組んでいる事を楽しそうに話してくれた。

○今回は10分verで実践したが、これを45分verに広げて、児童の話し合いを入れるともっと様々な考え方が引き出されて、より深い授業へと展開していったのかなと感じた。

○10分verで実践しても、自分が思っている「大切にしている事」はある程度伝えられたのかなと思った。

○同じ教材を活用しても、授業の入り方次第で、新たな展開へと導くことができるというのに気づいた。



写真②完走後の写真



写真①フルマラソン初出場時の写真

真実を見つめ、正しく判断することの大切さとは

★ワークショップのねらい

あるブロガーが抱えたラベリングに対する違和感を通して
真実を見つめ、正しく判断することの大切さを伝える。

教材内容

所要時間 **10分**～

準備するもの

資料：

- ①あるブロガーの体験談
- ② SDGs の一覧表 ※適宜準備

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
あるブロガーの体験談を読む	Q 1 この文章を読んで、あなたはどこに問題があると思うか。 —先輩がこの人を勝手に「陰キャラ」だと決めつけている。 —「陽キャラ」「陰キャラ」という言葉がよくないと思う。
	Q 2 「陰キャラ」や「陽キャラ」は若者の間で使われている言葉だが、これに対してどう思うか。また、それはなぜか。 —友達同士なら軽く使う感じだし、あまり気にならない。 —「陰」という漢字がマイナスイメージ。「陽キャラ」はいいけど、「陰キャラ」は言われると微妙。 —人を一方的に「陽キャラ」「陰キャラ」と分けること自体が問題。

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
SDGs と関連づけて考える	Q 3 ではもう少し話題を広げてみよう。SDGsの中から、先ほどのあるブロガーが経験した問題との共通点はどこにあると思うか。 —5番。ジェンダーの問題には、一方的な決めつけ、偏見がある。 —10番。性別、障害、肌の色などをめぐっている色々な問題が起きている —一人一人は違うのに、それを見ようとしていない。尊重できていない。 —ある意味、全部。理解が足りない。人でも世の中の問題でも、まずは知らないといけない。 ※「偏見がある」「一個人として見るのが大事」「相手を理解しようとするのが大事」 先入観や真実でないことは個人の尊厳を傷つける。何が真実かをしっかりと見つめ、判断する。偏見のない社会の実現は、ここからはじまるのかもしれない。そこからあらゆることを「知ること」の大切さに広げられたのもすごいことであるとコメント。
偏見のない社会を実現させるためには？	Q 4 みんなが自分らしくいられる偏見のない社会を実現させるために、あなたはどのような生き方をしていきたいか。 —まずは、偏見は持たず、相手と実際に関わって、知るところから始めたい。 —意見が合わないところがあったとしても、きちんと話し合いたい。その人の考え方を尊重したい。 —自分がされて嫌なことはしない。 ※すばらしいですね。一人一人が、より良い社会の実現に向けて自分なりの答えを見つけていってほしいとコメントする。

あるブロガーの話

学生ならほとんどの人が一度は聞いたことがあるであろう言葉に「陰キャラ」「陽キャラ」というものがあります。実際に使ったことがあるという人も多いのではないのでしょうか。

これらの言葉について、僕は今まで特段気にしたことはありませんでした。そういう言葉もあるんだな一程度の認識だったのです。

ところが先日！とある非常に不快な出来事が起こり、僕はこれらの言葉がとっても嫌いになりました。その話も含めて今回は、陰キャラ・陽キャラという言葉について、僕が思うことを語っていこうと思います。

大学で、とある友達と会話をしていました。すると、会話の流れでふと相手が「俺は陰キャラだからさー」という話をし始めました。

しかし僕は疑問を抱きました。話し相手の彼は、飲みサーに所属しており、教育実習にも行くような活発な人だったからです。

そこで僕は「陰キャラなの？」と相手に質問してみました。すると相手は「うん、俺は陰キャラだよ」と、やや不思議そうに返しました。

ここからです。すると彼は立て続けにこう言いました。

友「お前も陰キャラだよ」

心の中で（…………ファ？）という声を挙げましたね。何を言っているんだこいつはと。

僕は自分自身を陰キャラとも陽キャラとも思ったことはありません。“普通”の人間だと思って過ごしていました。非常に不快でしたね。このときから、僕は陰キャラ・陽キャラという区別について深く考えるようになりました。

出典:「陰キャラ・陽キャラという区別について思うこと」
<https://www.nomap-inlife.com/entry/inkyaVSyoukya>

未来を見据えたライフプランニング

★ワークショップのねらい

将来の自分の収入について考えることを通して
未来を見据えた計画（ライフプランニング）を立てることの
必要性を伝える

教材内容

所要時間 **10分**～



初期費用と生活費



住まいインデックス

一人暮らしに掛
かる金額は？

一人暮らし生活費



沖縄移住ナビ

準備するもの

資料：求人ボックス 給料ナビ（宜野湾市の仕事の年収・時給・給料情報）
【正社員・派遣社員・アルバイトの平均収入の一覧】
・沖縄で一人暮らしを始める際に掛かる、初期費用と生活費
<https://okitabi.net/hitorigurasihiyou/>
・住まいインデックス
<https://lifullhomes-index.jp/>
・沖縄で一人暮らしに掛かる金額は？
<https://nmiyazato.hatenablog.com/entry/2017/05/14/123217>
・沖縄の一人暮らし生活費はいくら？移住者のリアルな生活を公開！
<https://hitokatu.com/okinawa-singlelife-seikatuhi>
・沖縄移住ナビ
<https://okinawa-iju.net/seikatsucost/>

★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
資料を見て考える	Q 1 3つの職業形態があることを伝え、月給を計算して収入を比べよう。 （正規 28 万円、派遣 20 万円、アルバイト 15 万円） ※職業形態によって収入に違いがあることを説明する。
	Q 2 みんなはどれがいいか問い、理由もあわせて考える。 ー正社員がいい。給料が高いから。 ーアルバイトがいい。気楽そうだから。
	Q 3 3つの違いは何だろう？ ー収入の差、仕事への責任、保障
振り返り	Q 4 未来のことを考えるために必要なことは？ ※問いながら、次時へつなげる（または時間を拡大して考える）

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
一人暮らしに必要な経費を考える。	Q 1 出費について考えてみよう。一人暮らしをするとして、どんなことにお金を使うか？ 一家賃、光熱費、食費、遊ぶお金 ※一人暮らしに必要な経費を考える。
	Q 2 実際に調べてみよう。みんなが考えているもの以外に、どんなことにお金を使うのか？。 ※サイト等を使用しながら、1 か月あたりの必要な経費を具体的にする。
振返り	Q 3 前回の自分の収入と照らし合わせてどうですか？ 一貯金するお金がない、結構ギリギリ ※自分の将来、ライフプランを考えることへとつなげる

みんなで作って遊んで SDGs について考えよう

★ワークショップのねらい

- SDGs について知り、世界や日本の現状に目を向ける。
- 日本が抱えている問題について知り、身の周りにある問題について考える。
- 問題を自分事として考え、できることから行動しようとする意欲を育てる。

教材内容

所要時間 **13**時間 (45分×13)



すぐろくで
SDGs を学ぼう

準備するもの

スライドや本、タブレットなど
・「すぐろくで SDGs を学ぼう」(国連広報センター)
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/go-goals/

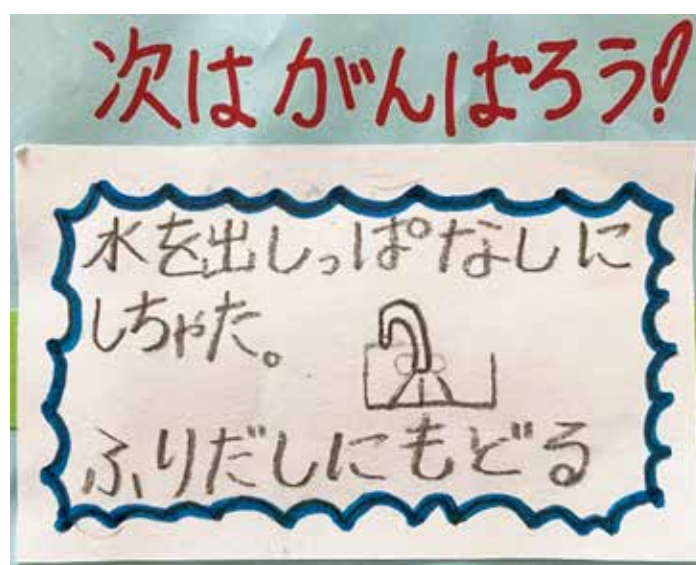
★進め方

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
1. 慣れ親しむ	【総 合】 1. SDGs とは何かについて知る。 動画や担任作成のスライドを通して、SDGs とは何かを知る。 (使用教材：パワーポイント、動画 (ベネッセ)) 2. 世界には様々な問題があることに気づく。 「貧困」などの難解感の読み方や意味を知る。※対象 3 年生の場合 すぐろくを楽しみながら、世界や日本が抱える問題について知る。 (使用教材：「すぐろくで SDGs を学ぼう」) 3. 自分事として考え、今できるアクションについて考える。特別なこと や持続不可能なことではなく、これまでにしてきたことと具体的な アクションを結び付けて考える。 これまでの生活を振り返り、自分がすでにしているアクションを出し 合い、他にできそうなことはないか話し合う。 (使用教材：図書館の本、タブレット) 4. 新聞記事から、記事の内容が 17 の目標のどれと関わるかについて 考え、すべての目標が関わりあっていることに気づく。 (使用教材：新聞記事、タブレット)

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
2. 知る	【総 合】 5. 「ジェンダー平等を実現しよう」 家にある「名もない家事」について気づかせ、家族に感謝し、自分からできることはやろうとする態度を育てる。 活動1：休校中に「家にある家事」について具体的に調べる。 目には見えない仕事があり、誰かに負担が偏っていないか考える。 【道 徳】 6. 家族に感謝し、家族のためにできることを進んでしようとする態度を育てる。 主題名「家族への思いやり」お母さん、かぜでねこむ終末場面で自分の家族へ手紙を書く。 (使用教材：教科書（光文書院）、ノート)
3. 考える	【社 会】 7. 昔と今の道具を比べることを通して、人々の暮らしにどのような影響を与えているのかを考える。 「わたしたちの市の歩み」 昔の道具を調べたり、昔のくらしインタビューを聞いたりしながら、今のくらしと比べる。 8. 暮らしをよくしようとみんなが願い、道具が便利に、生活が豊かになったことに気づかせる。 「わたしたちの市の歩み」年表づくりを通して、人々の暮らしの移り変わりを表現する。 9. 単元で学んだことがSDGsのどの目標と関わるかについて話し合い、実現に向けて多面的に考えることが重要であることに気づかせる。 「わたしたちの市の歩み」 これまで作成した道具カードや年表から気づいたことをもとに、17の目標のどれと関わるかについて考える。 (使用教材：教科書、ノート、タブレット（道具調べ）)

活 動	ファシリテーターと参加者の行動
4. 活かす	【総 合】 10. すごく作りへの意欲を高める。 横浜市みなとみらい元町小学校作成のすごくで遊び、気づいたことを話し合う。 （使用教材：Green ぼたんすごく） 【総合、図工】 11,12. 世界や日本が抱えている課題を自分事として考え、実践しようとする意欲を育てる。 今日から始められるアクションを 17 の目標ごとに考え、すごくを作り、楽しく遊ぶ。 （使用教材：カード、マジックペンなど） 【国 語】 第 3 時で作成したアクションカードを見直し、これまでの学びを振り返り、自分の考え方が広がり深まっていることを実感させる。 カードにそれぞれの目標に対するいい取り組みを考える。 学びを振り返る。

学習者（小学3年生）のつくったすごろく



オンライン交流学習（報告）

教師国内研修に参加した長嶺利奈さん（うるま市立天願小学校）、河野遼さん（熊本県立八代農業高校泉分校）が企画し、両校の児童・生徒をオンラインでつなぎ、

- ①中山間地域、農林業が抱えている問題を伝え、泉分校が実践している鳥獣被害対策活動（モデル）の必要性を伝え、同時に、多文化共生の観点から泉町の鳥獣文化の理解に繋げること
②異年齢集団とのオンライン交流（Google Meet）をとおして、社会性の向上に繋げることを目的に授業が実施された。

日 時 2022年2月17日（木）14：20～15:05

参 加 熊本県立八代農業高校泉分校 3年生全員

うるま市立天願小学校 6年生34名

展 開 ○高校生の動き ●小学生の動き

過程	学習内容及び活	指導及び支援上の留意点	備考
導入 5分	1 挨拶 2 本時の内容、目標確認	○●教員が生徒を観察、服装の確認をする。 ○●本時の流れを口頭説明する。	
展開 36分	3 鳥獣被害の現状説明（6分） 4 3の高校生の話を聞き小学生が考えること（15分） 5 意見の発表と高校生への質問（15分）	○代表者2～3名が①～⑤を説明する。 ①野生鳥獣による農林業被害の状況。 ②防除だけでは困難な現状。 ③狩猟者の高齢化。 ④自分達の山は自分達で守る。（地域の農家さん、八代農業高校生の取組） ※農作物を守るための個人の鳥獣被害対策が地域、命を守るための取組へと発展 ⑤狩猟で捕獲した獣の利用方法（太鼓やペットフード）。 ●高校生の話を聞く。 ○小学生の活動を見守る。 ●高校生の意見を聞き、前回の自分の意見を見直し、再度考える。 ●考えた意見を発表する。 ●高校生への質問をする。 ○意見交換をする。	・ Google Meetを使ってスライドで説明
まとめ	6 振り返り	●狩猟をとおしての自分なりの『命』に対して向き合うことができたか。	

小学生から高校生への質問

小学生からの質問	高校生からの答え
山に餌がないから、鹿や動物がおりてきているのではないかと。動物の餌を山に植えたりしたらいいのではないですか。	現在では、ひのきなど針葉樹しかない森となり、餌が少ない状況です。針葉樹の間に餌となる広葉樹があると良いが、シカが多すぎて植えてもすぐに食べられてしまう、台風や大雨で防ぐためのネットが壊されてしまう、餌となる森をつくるためには、年月がかかるなど現状ではシカを減らして、広葉樹などを増やし、豊かな森にすることが今できることです。そうすることで人やシカやイノシシが共存できる社会ができるのではないかと考えています。
沖縄では、ハブを三線の皮やお酒として使っているのですが、熊本では、イノシシや鳥獣の肉とかをどのように使っていますか。	シカ肉を人が食べられるように加工したり、焼いて食べたりします。動物用にペットフードとして売ってもあります。その他、シカの皮はお肉以外に太鼓に使用したりします。名刺やカード入れを作ったりする。高校生も作ります。
ヤンバルクイナを増やすにはどうしたらいいですか？	密猟者を取り締まったり、マングースを駆除したり、そういう方法でヤンバルクイナを増やすことができるのではないのでしょうか。 また、ヤンバルクイナは増えている状況にあるので、その取り組みを続けていくこともいいのかなと思います。
沖縄県では、カラスによる被害が最も多いのですが、そちらの地域では何の動物の被害が多いですか。	平地の方ではカモの被害が多く、山の方ではシカやイノシシの被害が大きい。
何故、この高校を選んだのですか。狩猟の資格を含めた、高校のコースで獲れる資格のことを教えてほしい。	狩猟免許や調理検定などの資格をとることができます。自分（発表者）は狩猟免許を持っていて、農業や林業に従事する際に活かすことができる資格です。 実際に、罠を仕掛けたり、捕獲をしたりしています。シカの皮やシカ肉を利用して活用して様々な取組を行っています。



天願小学校の様子



八代農業高校の様子



オンライン上の様子



ワークショップ作成者リスト

テ ー マ	名 前	所 属
命、人間生活、地域文化の多様性について	河野 遼	熊本県立八代農業高校泉分校
互いに認め合い、 共に生きていくことの大切さ	長嶺 利奈	うるま市立天願小学校
誰にでも自分の良さを生かせる場所がある (10分 ver)	濱口弥雲、村上泰子、 佐藤詩織、平田真弓	
誰にでも自分の良さを生かせる場所	濱口 弥雲	宮崎県立延岡星雲高等学校
自分の良さをいかした相互扶助のあり方	平田真弓	沖縄県立那覇高等学校
フードロスを減らすためにできること	大城真紀子	南風原町立南風原中学校
意識した買い物？	宮城 頼子	沖縄県立美里高等学校
世界のいろいろな食文化	高良実可子	石垣市立白保小学校
大切な水	金城智賀子、末吉明奈	那覇市立安謝小学校
「使い捨て型社会」を変える	宮平郁子	糸満市立潮平小学校
力をあわせて生きることの良さとは？	藤本由紀乃	中城村立中城小学校
良いところを見つけよう	北脇 皇	熊本市立山本小学校
決めたことを積み重ねることの大切さ	大城真紀子	カトリック学園海星小学校
「アンコンシャスバイアス」に気づく	國吉 美穂	興南高等学校
経験を通してやり続ける事の大切さを伝える	仲宗根佳佑	八重瀬町立東風平小学校
真実を見つめ、正しく判断することの 大切さとは	村上 泰子	宮崎県立延岡星雲高等学校
未来を見据えたライフプランニング	伊禮 由起	宜野湾市立普天間中学校
みんなで作って遊んで SDGs について考えよう	與那嶺与利子	西原町立坂田小学校
10分ワークショップ作成 講師	土 橋 泰 子	つながる学び / 開発教育コーディネーター

研修に参加しての感想

私は本校で探究活動の年間計画、授業案を担当する業務についており、今回の研修への参加は上司から勧められ参加をいたしました。探究活動に取り組み始めて1年目だったので知識も経験もなく、毎時間の計画を練るのに必死で、地域の課題に取り組むという他校の実践例を見ながら行き当たりばったりの指導をしていました。この研修を通してグローバルとローカルの関係性、地域課題に取り組む以前に生徒の自己理解・他者理解をしっかりと行うことの大切さを学ぶことができました。異校種・他県の先生方と交流をする中で、どのような発達段階を経て高校へ入学してくるのか、地域によって独特の文化があり授業の内容も大きく変わることを実感できたと思います。コロナウイルス感染拡大の影響から現地に行くことはできませんでしたが、広島でのフィールドワーク (zoom) では安芸高田市の事例を現地の方から教えていただくことができ、大変刺激を受けました。特に『多文化共生センターきらり』の職員の方のお話は大変印象に残っております。地域に住む外国人実習生の方に地域住民が先生となり日本語や文化を教えていること、センターでの外国人実習生の生活など具体的にお話を聞くことができ、授業でも生徒にお話させていただきました。【サードプレイス】という言葉にも惹かれ、学級の生徒にもそのような場所を見つけてほしいという思いが湧き、10分WSを50分にした授業の中で自己理解・他者理解・サードプレイスについて一緒に考えることができ、貴重な時間を過ごすことができました。今回の研修参加から学んだことを活かし、本校の生徒の実態、地域に根ざした探究活動を計画していきたいと思っております。

宮崎県立延岡星雲高等学校 佐藤 詩織



教師国内研修を終えて、3つ心に響いていることがあります。

一つは、身近にSDGsや多文化共生などにつながる材がたくさんある事です。安芸高田市の地域創生・学習支援、広島のPCVの活動を例に様々な実践や活動を学ぶ中で「人との関わり」が材になる事を感じました。平和について・海の環境を守る活動や持続可能なエコ活動など沖縄県・石垣島で考えられる課題に子ども達と取り組んでいきたいです。

二つ目は、フォトランゲージの効果です。10分ワークの実践から、写真を使って考えを書き出していく活動を子ども達と行いましたが、全員が活発に書き進め、グループで発表することができました。今後も、アフリカでの写真を活用していきます。「何を捉えさせたいのか」教師が明確にすることで子ども達の活動が変わる、改めて教材研究の大切さ、そして自分自身が楽しむことを学びました。

最後に、フィンランドにおいて、学校は「幸せになる方法を見つけるところ」と考えていることです。グローバル能力の育成を通して、自己肯定感を高められるような関わりを子ども達と築いていきたいです。

この研修を通して、多くのキーワードに触れ、刺激を受けました。今後も実践を続け、子ども達が学びたくなる！調べたくなる！話したくなる！授業作りをしていきたいです。

カトリック学園海星小学校 北脇 皇

2021年度（令和3年度）
**JICA教師国内研修（沖縄・九州）
報告書&ワークショップ集**



【発行】
2022年3月



【発行者】

独立行政法人国際協力機構 沖縄センター（JICA沖縄）
〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1
TEL:098-876-6000/FAX:098-876-6014



【研修実施団体】

公益社団法人 青年海外協力協会沖縄事務所（JOCA沖縄）
〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖1丁目1番21号
OFFICE TIMEビル502号室
TEL:098-943-7801/FAX:098-943-7802